

2021年3月 キューバ情勢

【概況】

1 内政

- (1) 第8回共産党大会への代表委員の選出
- (2) 閣僚評議会の開催
- (3) 国家評議会の開催

2 外交

- (1) バリー・ブルキナファソ外務・協力大臣との会談
- (2) ベトナムとの外務省政策協議
- (3) 京都 कांग्रेस（第14回国連犯罪防止刑事司法会議）出席
- (4) デルシー・ベネズエラ副大統領ほかの訪問
- (5) 不法移民に関するキューバ外務省声明
- (6) ベトナムとの外相電話会談
- (7) 第5回キューバ・パキスタン二国間政策対話
- (8) ロドリゲス外務大臣の第10回英国・カリブ・フォーラム出席
- (9) シエラレオネとの外相テレビ会談
- (10) 第3回一方的かつ抑圧的政策に関するキューバEU対話
- (11) バグネル・ペルー外務大臣との会談
- (12) 外務省総括
- (13) 米国による対キューバ経済封鎖反対キャンペーンの世界における展開
- (14) ブラウン・クック諸島首相との会談
- (15) 新型コロナウイルス感染症対策のための諸外国へのキューバ人医療団の派遣

3 新型コロナウイルス

- (1) 新型コロナウイルス感染状況等（※3月31日23:59時点、保健省発表）
- (2) 新型コロナウイルス感染症のキューバ国産ワクチン

【本文】

1 内政

- (1) 第8回共産党大会への代表委員の選出

4日、4月16日から19日にかけて予定されている第8回共産党大会に出席する代表委員が各県及び革命軍及び内務省で選出された。代表委員には、ラウ

ル・カストロ共産党第一書記を始め、ミゲル・ディアスカネル大統領、ホセ・ラモン・マチャード・ベントウーラ共産党第二書記、エステバン・ラソ人民権力全国議会兼国家評議会議長、マヌエル・マレーロ首相などが含まれている。

各代表委員は各県において、１５日から２０日にかけて、共産党大会で議論・採択される予定の文書に関し、分析・意見交換を行った。

（２）閣僚評議会の開催

４日、閣僚評議会が開催され、通貨統合関連政策、経済計画、青年の島開発計画、保育所開設等について議論された。

（３）国家評議会の開催

２３日、マレーロ首相も出席する中、ラソ議長の下で国家評議会が開催され、内務省設立６０周年記念硬貨発行及び化学兵器使用禁止に関する政令の改正の２つの政令が採択された。

２ 外交

（１）バリー・ブルキナファソ外務・協力大臣との会談

１日、ナディエスカ・ナバロ駐ブルキナファソ大使は、アルファ・バリー外務大臣と会談した。ナバロ大使は、良好な二国間協力関係に満足の意を表するとともに、ブルキナファソ側から関心が表明されたスポーツ及び保健分野における協力拡大の可能性について言及したほか、キューバにおける新型コロナワクチン開発について説明した。また、国連総会における「米国の対キューバ経済制裁終了の必要性」決議についても話し合われ、バリー外務大臣はブルキナファソの変わらぬ支持を確認した。

（２）ベトナムとの外務省政策協議

２日、マルセリーノ・メディーナ外務省第一次官及びブイ・タイン・ソン・ベトナム外務次官の間で、第６回キューバ・ベトナム外務省政策協議がオンライン形式で開催された。両者はハイレベルでの政策対話を継続し、新型コロナウイルス対策を含めたさまざまな分野における友好、連帯、協力を推進していく意志を表明するとともに、２０２０年が外交関係樹立６０周年であったことに言及しつつ、キューバにおけるアジア最大の投資国であるというベトナムの立場及びキューバの食糧安全保障案件におけるベトナムの役割の重要性について確認した。

（３）京都 kongress（第 14 回国連犯罪防止刑事司法会議）出席

7 日、アントニオ・イバラ法務省国際関係局長は、京都 kongressにおいて、キューバは憲法に明記されている正当な法的プロセスに基づいた効果的、公平、人間的な司法制度を推進する力強い政治的意志を有する点を強調する演説を行った。

（４）ロドリゲス・ベネズエラ副大統領ほかの訪問

9 日、ハバナにおいて、リカルド・カブリス副首相及びロドリゲス副大統領がそれぞれ代表を務め、第 21 回キューバ・ベネズエラ統合協力合意に基づく政府間委員会が開催された。両代表団は、2021 年の二国間協力の課題及び新型コロナウイルス感染対策が強要する政治情勢に特徴付けられた二国間案件の進捗状況について分析した。また、農業・食糧分野における政府間合意及びモリンガ、チトニア、モレイラ等の作物の統合的拡大・活用に関する政府間合意が署名された。同会合には、キューバ側からロドリゴ・マルミエルカ外国貿易・外国投資大臣、リヴァン・アロンテ・エネルギー・鉱業大臣、エルバ・ペレス科学技術環境大臣、グスタボ・ロドリゲス農業大臣及びレネ・メサ建設大臣が、ベネズエラ側からカブリエラ・ヒメネス科学技術大臣、ウィルマー・カストロ農業生産性・土地大臣、ラウル・リー外務次官及びアダン・チャベス駐キューバ大使が、それぞれ出席した。

また、9 日、ミゲル・ディアスカネル大統領は、ロドリゲス副大統領と会談した。

（５）不法移民に関するキューバ外務省声明

11 日、キューバ外務省は、「キューバは非正規移民の結果としての悲劇的な出来事を防ぐよう強く求める」と題した声明を発表した。同声明では、3 月初め、女性や子供を含むキューバ人の一団がビジャ・クララ県北部海岸から国外へ向け出発し、バハマ近海で遭難した事件に言及しつつ、非正規移民の誘因を構成する要素の中には、ハバナの在米大使館領事部による移民及び非移民査証の発給手続きの停止、同手続きの第三国への移管及び 1966 年のキューバ人調整法（キューバからの移民を優遇する措置）が挙げられるほか、毎年最低 2 万名分のキューバからの合法移民を保証するという米国による約束も遵守されていないとして、米国を非難した。

（６）ベトナムとの外相電話会談

16 日、ロドリゲス外務大臣とファム・ビン・ミン副首相兼外務大臣は電話会談を行い、良好な二国間関係を強調した。両外務大臣は、ハイレベルの政治関係、

統合的協力及び両国における社会経済発展に貢献する社会主義国家建設の経験についての意見交換を行った。ロドリゲス外務大臣はミン副首相に対し、1月25日から2月1日にかけて開催された第13回ベトナム共産党大会の成果に祝意を表した。また、両外相は、最近の二国間関係について、外交関係樹立60周年、テレビ会議方式で行われた第38回政府間委員会及び第6回外務省政策協議の開催にも言及した。

(7) 第5回キューバ・パキスタン二国間政策対話

17日、アナヤンシ・ロドリゲス外務次官と Faisal Niaz Timizi パキスタン外務次官は、テレビ会談方式で行われた第5回キューバ・パキスタン二国間政策対話に出席し、二国間関係及び地域・国際情勢について意見交換を行った。Timizi 外務次官は2005年10月の大地震の際のキューバによる支援及び900名以上のパキスタン人医師の育成に謝意を表した。ロドリゲス外務次官は、米国による対キューバ経済・貿易・金融封鎖への非難というパキスタンの歴史的立場に謝意を表した。また、この機会に外交官学校間の協力合意への署名も行われた。

(8) ロドリゲス外務大臣の第10回英国・カリブ・フォーラム出席

18日、ロドリゲス外務大臣はキューバを代表して第10回英国・カリブ・フォーラムに出席した。同フォーラムはほぼ2年に1回開催される、英国とカリコム諸国及び英領カリブ諸国とのハイレベル対話で、キューバがオブザーバーとして参加するのはこれが3回目。ロドリゲス外務大臣は、フォーラムの主催者であるドミニク・ラーブ英外務大臣にキューバの招待への謝意を表明し、カリブ地域及び英国とキューバが協同する可能性を含めた、キューバをカリブ諸国と結びつけるテーマについての経験を共有できることに満足の意を表した。

(9) シエラレオネとの外相テレビ会談

19日、ロドリゲス外務大臣は、ナビラ・ファリダ・チュニス・シエラレオネ外務・国際協力大臣とテレビ会談を行った。両外相は良好な二国間関係を強調するとともに、共通関心事項について話し合った。また、両国間の協力を拡大し続ける意志を再確認した。さらに、両国外務省間の定期的な外交政策対話についての合意への署名が行われた。この対話は、4月24日に49周年を迎える二国間外交関係を強化するための一歩であった。

(10) 第3回一方的かつ抑圧的政策に関するキューバEU対話

25日、キューバEU政治対話及び協力に関する合意(ADPC)に基づき、

キューバ側はマリア・デル・カルメン・エレラ外務省多国間問題・国際法総局長代行が、EU側はハビエル・ニーニョ欧州対外活動庁（E E A S）米州総局次長が、それぞれ代表を務め、テレビ会議方式で第3回一方的かつ抑圧的政策に関するキューバEU対話が開催された。同対話は2019年11月にハバナで開催された会合に続くもの。同会合は相互尊重と建設的な雰囲気の中行われ、キューバ国民と同時にEUによる経済・貿易的利益にも影響を与える、米国による対キューバ経済・貿易・金融封鎖が引き起こす損失について意見交換する良い機会となった。

（11）バグネル・ペルー外務大臣との会談

25日、セルヒオ・ゴンサレス駐ペルー大使は、アラン・バグネル・ティソン・ペルー外務大臣と会談した。両者は、新型コロナウイルス感染拡大を受けた両国、地域及び国際社会の保健衛生及び経済情勢について分析した。ゴンサレス大使は、第Ⅲ相治験に進んでいる「ソベラナ2」及び「アブダラ」を中心としたキューバ国産ワクチンについて説明した。

（12）外務省総括

27日、ディアスカネル大統領出席の下、外務省の2020年の総括が行われた。ロドリゲス外務大臣は、キューバ外交の最優先課題は米国による経済封鎖との闘いである旨述べるとともに、キューバが受ける及び提供する国際協力、モノとサービス輸出振興、新たなビジネスの創出及び投資促進が2021年の優先課題であるとした。

（13）米国による対キューバ経済封鎖反対キャンペーンの世界における展開

27日及び28日、米国による対キューバ経済封鎖の即時撤廃を求めるキャンペーン活動が世界各国で行われた。共産党機関紙「グランマ」は、米国、カナダ、メキシコ、コロンビア、アルゼンチン、ニカラグア、コスタリカ、ホンジュラス、エクアドル、チリ、エルサルバドル、ブラジル、ペルー、ロシア、イタリア、ドイツ、英国、ベルギー、スイス、スペイン、ナミビア、ガンビア、アンゴラ、南アフリカ、チュニジア、エジプト、レバノン、中国及びタイなど、キャンペーンが50か国以上で行われたとして大々的に報じた。

ディアスカネル大統領は、在外キューバ人及びキューバの友人によって組織された世界的なキャラバンの実施に謝意を表し、自身のツイッターに「公正のための闘いは私たちを結びつける」と投稿した。28日、ハバナでも、海岸通り（マレコン）において米国による対キューバ経済封鎖反対キャラバンが開催され、多くの若者ととともにロドリゲス外務大臣も参加し、ソーシャルネットワークを通

じ、新型コロナウイルス感染拡大下における米国政府の対キューバ経済・貿易・金融封鎖の強化は大量殺戮であると強調し、同封鎖は犯罪、違法、不道德、域外適用及び国際法違反であると訴えた。

（１４）ブラウン・クック諸島首相との会談

３０日、エドガルド・バルデス駐ニュージーランド大使は、ニュージーランド訪問中のマーク・ブラウン・クック諸島首相と会談した。ブラウン首相は、キューバによるクック諸島の医師育成への支援に謝意を表した。キューバとクック諸島は２００２年に外交関係を樹立した。

（１５）新型コロナウイルス感染症対策のための諸外国へのキューバ人医療団の派遣

キューバ政府発表（大統領府、外務省発表及び政府系メディア含む）によると、３月末時点でのキューバ人医療団の派遣先国及び派遣人数は以下のとおり（すでにキューバに帰国している医療団も含む）。

- ・英領アンギラ
- ・仏領マルティニーク
- ・英領バージン諸島
- ・英領モンセラット
- ・アンティグア・バーブーダ
- ・グレナダ
- ・セントルシア
- ・セントクリストファー・ネービス
- ・セントビンセント及びグレナディーン諸島
- ・バルバドス
- ・ドミニカ
- ・トリニダード・トバゴ
- ・ハイチ
- ・英領タークス・カイコス諸島
- ・ジャマイカ
- ・ベリーズ
- ・スリナム
- ・メキシコ
- ・ホンジュラス
- ・ニカラグア
- ・パナマ

- ・ベネズエラ
- ・ペルー
- ・トーゴ
- ・赤道ギニア
- ・エスワティニ王国
- ・南アフリカ
- ・アンゴラ
- ・サントメ・プリンシペ
- ・カーボベルデ
- ・ケニア
- ・ギニア共和国
- ・ギニア・ビサウ
- ・シエラレオネ
- ・アンドラ
- ・イタリア
- ・アゼルバイジャン
- ・カタール
- ・クウェート

3 新型コロナウイルス

（１）新型コロナウイルス感染状況等（※３月３１日２３：５９時点、保健省発表）

ア 感染者累計：７６，２７６名

イ 死亡者数：４２５名

ウ 退院者数：７１，４９３名

エ 自国帰国者数：５４名

オ 国外搬送者数：２名

カ 入院中：４，３０２名（うち、危篤３１名、重篤４３名）

（２）新型コロナウイルス感染症のキューバ国産ワクチン

ア 治験最終段階

３日付フィナンシャル・タイムズ紙は、「キューバは自国で生産した新型コロナウイルスに対する２つのワクチンの治験の最終段階に入った」と題する記事を掲載した。BioCubaFarma 社（キューバの薬品製造公社）のマルティネス総裁は、何千人ものキューバ人が２種類のワクチン「ソベラナ２（Soberana 2）」と「アブダラ（Abdala）」の治験に参加しており、今までのところ強力な免疫反応

を示すと共に、深刻な副作用は検知されていないと語った。「ソベラナ2」は、44,000人のキューバ人に加え、キューバの同盟国であるイラン人及びベネズエラ人にも治験が行われる予定。また、メキシコ及びキューバ当局によると、メキシコもこの治験に加わるとの話をしている。政府によると、いずれのワクチンも2週間の間隔を置き2回接種されるが、特別な冷蔵保存が必要ないとしている。「ソベラナ2」の治験の結果が判明するのは5月で、「アブダラ」の治験は3月後半に開始される予定である。

イ キューバと中国によるワクチン開発

21日付 Cubadebate は、新華社通信を引用し、中国とキューバが協力し、新型コロナウイルスの様々な株に効果的で、新型コロナウイルス感染症を予防するための「Pan-Corona」という名のワクチン開発を行うと発表したと報じた。新華社通信によれば、中国及びキューバの遺伝子工学バイオテクノロジーセンター（CIGB）の研究者たちは、湖南省永州市に両国の研究のために作られた施設でワクチン開発を行う。ヘラルド・ギジェンCIGBバイオ医薬品研究局長は、Cubadebate に対し、この計画は中国側から提案があったもので、「将来存在する新たな変異株による感染拡大を防ぐための戦略である」と話すとともに、キューバ側が経験と人材を提供し、中国側が科学力、機材、ロジスティックス及び資金を提供するという、バイオテクノロジー分野における良好な二国間関係を強調した。

（了）